



古寺に灯のともりたる紅葉哉（正岡子規）

陽だまりが温かく感じる日もあるのですが、肌寒く感じる日が多くなってきました。毛利氏庭園の紅葉ももうすぐ見ごろを迎えそうです。楽しみですね。



スマートフォンの活用について考える

この便りを読まれている方の多くは、スマートフォンをお持ちでしょうか。スマートフォンを使えば、いつでもニュースが読め、天気を知ることができ、調べたいことがあればすぐに検索できる等々、本当に便利なツールですよ。もうこれがないと生活ができなと感じている方も多いのではないのでしょうか。

今は大人だけでなく、たくさんの子どもたちも持っています。これからの時代は、このようなツールを使いこなすことができる能力も必要になってくるのでしょう。

スマートフォンを上手に使い、生活を有意義にされている方も多いのですが、何にでも長所があれば、短所もあります。大切なのは上手に使うことでしょう。ここでは、スマートフォンの使い方について、これでよいのだろうかと考えさせられることについて書いてみます。

街の中で、歩行中あるいは自転車運転中にスマートフォンを操作している人が多く見られることに気づきます。これが危険な行為であることは皆さんも分かっておられることでしょう。前を見ないために何かにぶつかり自分が怪我をしたり、また相手に怪我をさせてしまったりすることもあります。特に自転車運転中にスマートフォンを操作して人を怪我させた場合は大変な補償額が発生します。当然、子どもがそのようなことをすると親がその保障をしなければならなくなります。自転車運転中のスマートフォンの操作は絶対にしてはならないことです。（道路交通法では自転車運転中、携帯電話やスマートフォンを使用した場合は、5万円以下の罰金が科されることになっています）

レストランでの様子についても気になることがあります。料理が運ばれてくるまでスマートフォンを操作し、子どもの相手をしない親の姿。また、逆に子どもの方がスマートフォンを操作し、親と会話をしていない姿。このような親や子どもの姿をよく見かけます。皆さんは、このことをどのように思われますか。せっかく親子で食事に来ているのですから、会話を楽しみながら待ったほうが良いと思うのは私だけでしょうか。親と子どものコミュニケーション不足がよく言われますが、このような時にこそ、スマートフォンの使用は控え、親子のコミュニケーションの機会にしてほしいものです。

まだまだスマートフォンの使用について気になることが多数あります。みなさんには、センターだよりの“第2号”と“第3号”で「スマートフォンの使い方について」子どもへの指導をお願いしたところです。（学校には、教育委員会から使い方についての文書が配布されています）子どもたちは大人である私たちに比べて判断力が不十分です。スマートフォンを与えていれば、使いたいだけ使い、自制ができません。上手に使えるように、今一度家庭でも使用については話し合ってみましょう。